

令和元年度 指定管理施設運営状況評価表

1 施設の概要

施設の名称	障害児入所施設 はまゆり学園		
指定管理者	団体名	社会福祉法人 みちのく福祉会	
	代表者名	理事長 内田大輔	
	所在地	むつ市大字奥内字大室平9 1番地1	
指定期間	平成31年4月1日～令和4年3月31日		
指定管理業務の内容	1. 障害児入所支援 2. 短期入所事業 3. 日中一時支援事業		

2 収支の状況

単位：千円

区 分	計画額①	実績額②	増減 (②－①)
収入合計 (A)	123,582	128,535	4,953
うち利用料金額	68,164	70,937	2,773
うち指定管理料	54,618	54,618	0
支出合計 (B)	123,582	125,289	1,707
うち人件費	89,384	87,011	△2,373
収支差 (A) - (B)	0	3,246	3,246
計画書と比較した実績額の増減理由	<p>入所児童数は依然として少なく推移しており、年度途中より「緊急一時保護」を受けて「措置入所」が増えたことにより、若干の増加が見込まれました。学園内で様々な事業サービスを展開することにより地域支援（短期入所・日中一時）の利用は着実に伸びています。</p> <p>支出においては、2年間の運営結果を課目毎に精査しており、その結果を踏まえつつ、適切な対応を行うことで施設維持管理費の抑制に繋げています。</p>		

3 施設利用の状況

単位：人

	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増減 (①-②)
利 用 者 数	入 所	3 0	2 1	△ 9
	短 期 入 所	1 5 0	2 1 8	6 8
	日 中 一 時	2 8 0	2 6 6	△ 1 4
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無）【年4回実施】				
1. 年間行事に関すること（対象者：入所児童の保護者）				
2. 行事評価及び改善点に関すること（対象者：入所児童の保護者）				
3. 施設運営に関すること（短期、日中一時）（対象者：短期、日中一時児童の保護者）				
4. 一年間の振り返りに関すること（対象者：入所児童の保護者）				

4 自主事業の実施状況

単位：人・円

No.	事 業 名	事業内容	利用者数	収 入	支 出
1	子と親子の施設体験事業	障害がある児童を持つ家族を対象に、はまゆり学園がどのようなものなのかを知ってもらい、利用の促進につなげる。	2 8	0	576
2	障害制度の研修	障害児と成人の制度の違いを知ってもらい、地域移行に向けての準備に役立ててもらおう。	9	0	288
3	障がい者スポーツ教室	障がい者スポーツの普及とリハビリテーションを目的とし、多くの人との交流の機会を持ち、障がい者自身の社会参加を促すとともに、ボランティア等に関心を持ってもらい、人材を育成する機会とする。	6 7	0	0

5 個別項目評価

評価項目	自己評価	下行評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか	A	A
②施設の使用許可等が適正、円滑に行われたか	A	A
③利用者に対する接客マナー等職員の勤務態度は適正だったか	A	A
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか	A	A
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか	A	A
②潜在的な利用者等に営業活動を行い、利用アピールをしたか	A	A
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか	A	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い効果があったか	A	A
②収入増を図るための取組みを行い効果があったか	A	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか	A	A
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか	A	A
②設備・備品の維持管理及び修繕が適正に行われたか	A	A
③労働関係法令を遵守し、適正な管理を行ったか	A	A
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等利用できるよう利用情報提供の配慮をしたか	A	A
②日常の事故防止等の安全対策は適正であったか	A	A
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか	A	A
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか	A	A

6 指定管理者総合評価

平成28年4月より「下北地域広域行政事務組合指定管理者制度」に則り、運営と管理を始めた当学園が、事務組合当局並びに保護者の方々、関係機関や地域の皆様のおかげを持ちまして、指定管理2期目の新たな1年を大過なく終え、無事に卒園生4名をそれぞれの新しいステージへ送り出すことができました。

第2期運営テーマは“はまゆり学園開設50周年とNEXT50に向けて歩み続ける”です。開設50年という節目の年を迎え、半世紀にわたるその歴史には関係者の並々なぬ想いやご尽力があり、その歩みが根となり幹となつてはまゆり学園が今ここに存在しています。関係するすべての方々へ感謝するとともに、その想いを継承し、地域で唯一の児童入所施設として、その社会的使命を果たし続けることがその責務です。入所児から卒園児まで支援することでの心身の成長・発達の経過や変化を保護者や次の支援機関に引き継ぎ、送り出すことが施設としての役割です。24時間包括的に支援できる入所施設の優位性を生かし、起床から就床までの生活全般をきめ細かに支援すること。地域で生活することを見据え、多くの社会体験、社会学習の実施。また、社会に送り出した後のフォローアップ。毎日元気に明るく直ぐ競るように健康管理。児童自らが自身の生命を守り、危険から回避できるための安全学習等、卒業後の地域生活に向けた『育ての場・巣立ちの場』を意識したデイリープログラムの実施。今年度は個々の年齢に応じた成長と卒園後の地域生活を視野に入れた学園創りを再認識し、次の50年に向け動き出しています。

学園は「障害児入所施設」と共に「緊急一時保護施設」としての役割を持ちます。今年度は「児童相談所」から連絡が入り対応となった児童はいませんでした。措置入所として継続入所している児童は6名となっています。各関係機関との情報交換や各種連携を通して「被虐待児童」への支援は勿論のこと、様々な問題を抱える家庭・保護者への対応も、今後の施設運営の課題であると考えています。

児童へ“安心・安全な生活環境を提供することが基本”となる入所施設ですが、今年度は2月に「インフルエンザ」が発生してしまいました。手洗い、うがい、消毒等、今後は今まで以上に衛生管理に気を付けていきたいと考えています。

当学園が地域に必要とされ、下北圏域における総合的・重層的な児童福祉サービスの一翼を担うべき「拠点・機能」であることを忘れず、次年度以降もより良い学園創りと先進的・革新的な運営をして参ります。今後とも学園に温かいご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます、令和元年度のご報告とさせていただきます。

7 下北地域広域行政事務組合の総合評価

平成30年度に続き、児童及び保護者の不安解消とスムーズな施設運営に尽力された結果として、大きな問題もなく運営されています。

令和元年度においては、指定管理者の評価にもあったインフルエンザに加え、新型コロナウイルスという新たな難題が発生し、児童・職員の感染対策の徹底をはじめ、逐次、組合へ報告・相談し、緊急連絡網の再点検も行うなど適切な対応がなされていたと思います。

施設の管理運営についても、有事の際には即時連絡を入れており、児童が安心して快適に過ごせるよう留意しており、日常生活の中で感じた危険箇所等については物を撤去する、あるいは配置を替えるなど工夫を凝らし、安全面を含めて効率的な運用に努めていたと感じます。

施設の改修等については、比較的新しい施設であることから、大きな修繕を必要としないものの、空調設備等に対する軽微な報告事項もあがっていることから、引き続き、屋内外の設備全般において日常的に点検し、適正な施設管理に努めていただきたいと思っています。

最後に、児童の安心・安全に最大限留意しつつ、積極的な自主事業の展開及び適切な施設運営に努められることに期待し総合評価といたします。